



SCB

ニュース&トピックス

No.2024-68

(2024. 8. 20)

信金中央金庫 地域・中小企業研究所

研究員 西 俊樹

03-5202-7671

s1000790@FacetoFace.ne.jp

データで読み解くこれからの信用金庫経営 (14) 総資金利鞘

－ 信用金庫の総資金利鞘は上昇傾向 －

ポイント

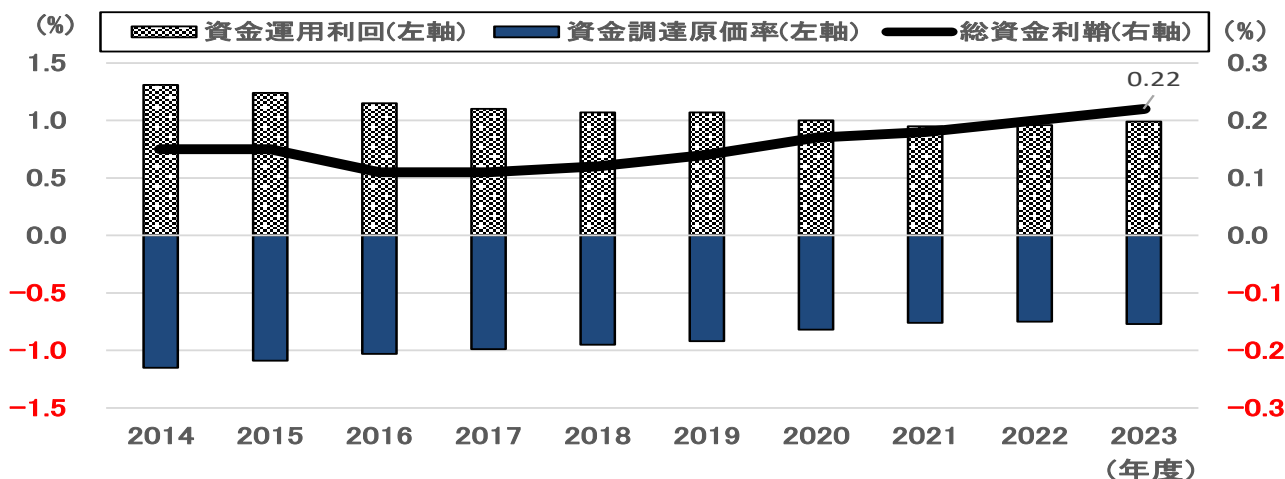
- 2023年度の信用金庫の総資金利鞘は、前期比0.02ポイント上昇の0.22%となった。過去10年間に於ける推移をみると、2018年度以降、総資金利鞘は上昇傾向にある。
- 他業態比較では、信用金庫の総資金利鞘は地方銀行を下回るものの、都市銀行、第二地方銀行より高い水準で推移している。
- 信用金庫別では、総資金利鞘は総じて上昇傾向であり、0.20%以下の信用金庫が半数程度まで減少している。また、0.60%超の信用金庫が増加傾向にあるなど、信用金庫間の総資金利鞘の差が拡大している状況がみられる。

1. 総資金利鞘（全国）の状況

2023年度の全国信用金庫の総資金利鞘（資金運用利回－資金調達原価率）は、前期比0.02ポイント上昇の0.22%となった。過去10年間に於ける推移をみると、2018年度以降、総資金利鞘は上昇傾向にある。

上昇している要因としては、資金運用利回の上昇よりも資金調達原価率の低下の方が大きく寄与している（図表1）。資金調達原価率の低下は、経費額の減少以上に、コロナ禍において預金量が大きく増え、資金調達勘定が増加したことが影響している。

（図表1）総資金利鞘率（全国）の状況



（備考）信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

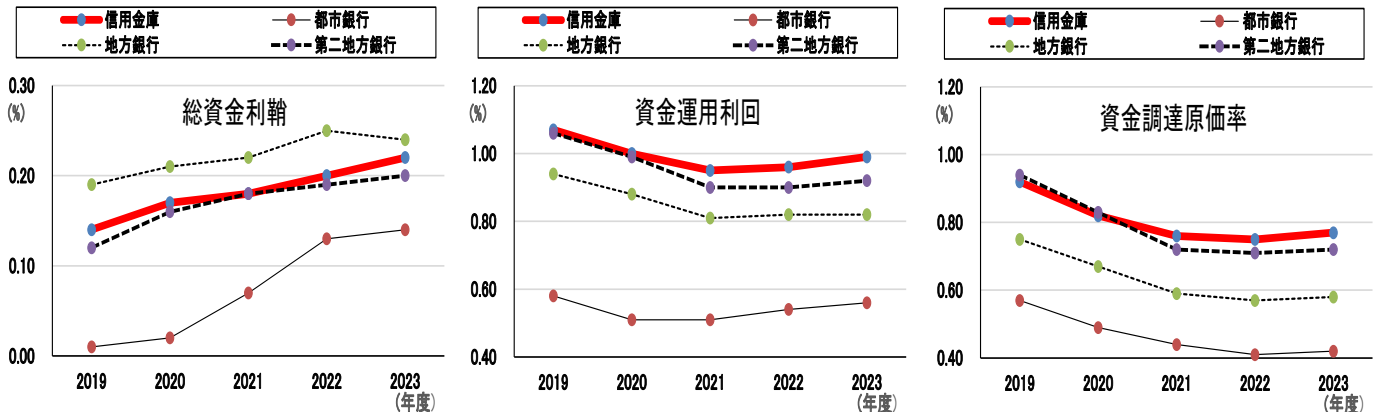
2. 他業態との比較

業態別に、近年5年間に於ける総資金利鞘、資金運用利回、資金調達原価率の推移を示す（図表2）。

信用金庫は、総資金利鞘では地方銀行を下回るものの、都市銀行、第二地方銀行より高

い水準で推移している。資金運用利回では他業態よりも高い水準で推移している一方、資金調達原価率が他業態に比べ最も高い水準で推移している。

(図表2) 他業態の状況



(備考) 1. 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成
2. 他業態は全国銀行財務諸表分析より作成

3. 信用金庫別総資金利鞘の状況

次に信用金庫別に、近年5年間に
おける各年度の総資金利鞘の推移を
示す(図表3)。

総資金利鞘は総じて上昇傾向であり、0.20%以下の信用金庫が半数程度まで減少している。また、0.60%超の信用金庫が増加傾向にあるなど、信用金庫間の総資金利鞘の差が拡大している状況がみられる。

本稿では、2期間比較(2019年度末と2023年度末)で総資金利鞘が0.20ポイント以上上昇した27金庫について上昇要因を調べたところ、

うち18金庫については資金運用利回の上昇よりも資金調達原価率の低下が寄与していることが確認できた。

全国信用金庫の総資金利鞘は近年上昇傾向にあるが、主因としては、資金調達原価率の低下が寄与してきた。一方で、資金調達原価率は、他業態と比較すると高く推移している。

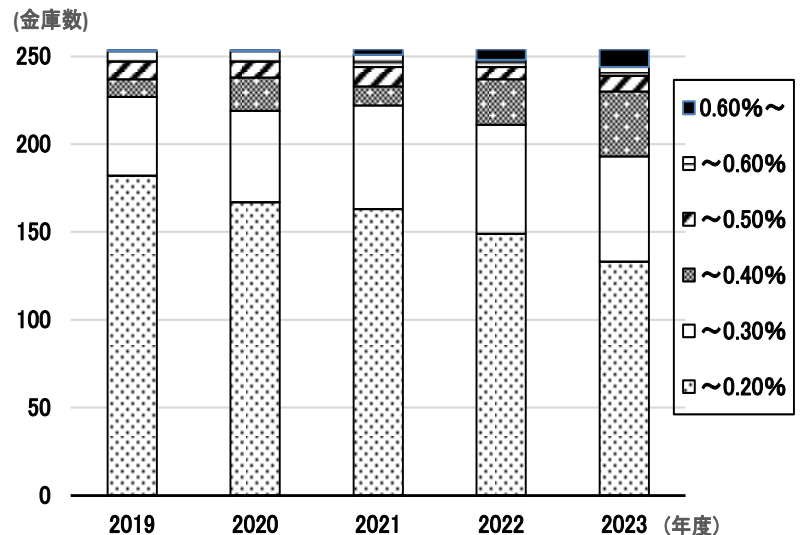
多くの信用金庫において、預金量が減少することが珍しくなくなることが見込まれている中、今後の資金調達状況が信用金庫の収益性に変化を及ぼすことも考えられる。

以上

※信用金庫業界の各種データは、信金中央金庫 地域・中小企業研究所ホームページの「信用金庫統計」(<https://www.scbri.jp/publication/toukei/>)に掲載されています。併せて、ご活用ください。

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断でお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。

(図表3) 信用金庫別総資金利鞘の状況



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成